

ちょっと気になるデータ

未活用労働の統計

— 労働力調査(詳細集計)2020年7～9月期平均結果から —

2020年11月10日に総務省統計局から「労働力調査(詳細集計)」の2020年7～9月期平均の結果が公表された。その中から、就業に関するニーズが満たされていない状態である未活用労働の状態^注に関する結果を紹介する。

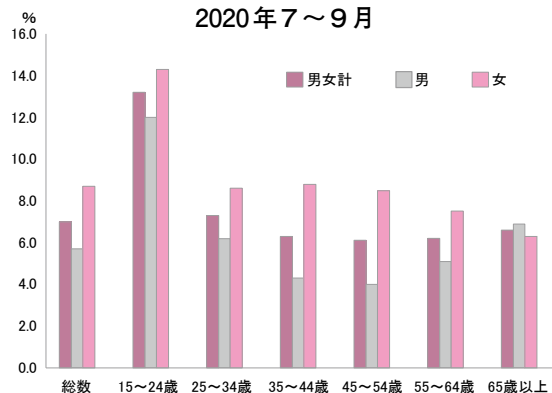
未活用労働の状態にある者は、①追加就労希望就業者、②失業者、③潜在労働力人口の3つである。

まず、追加就労希望就業者とは、就業時間が週35時間未満で、就業時間の追加を希望しており、追加できる就業者である。就業者(6663万人)のうち、追加就労希望就業者は219万人(前年同期に比べて46万人増加)となっている。

次に、失業者とは、就業しておらず、1か月以内に求職活動を行っており、すぐに就業できる者である(求職活動期間が1週間以内と定義されている従来の完全失業者とは異なる)。失業者は224万人(同45万人の増加)となっている。

さらに、潜在労働力人口とは、就業者でも失業者でもない者のうち、①1か月以内に求職活動を行っており、すぐにはないが2週間以内に就業できる者、②1か月以内に就職活動を行っていないが、就業を希望しており、すぐに就業できる者、のいずれかの要件を満たす者である。非労働力人口(4172万人)のうち、潜在労働力人口は43万人(同5万人の増加)となっている。

最も包括的に未活用労働を捉えた指標は、未活用労働指標4(LU4)である。LU4は、労働力人口及び潜在労働力人口に占める失業者、追加就労希望者及び潜在労働力

未活用労働指標4
2020年7～9月

人口の割合である。LU4は、男女計7.0%、男性5.7%、女性8.7ポイントとなっておりそれぞれ前年同期に比べて1.4ポイント上昇した。年齢階級別にみると、男性では15～24歳で12.0%と最も高く、次いで65歳以上6.9%、25～34歳6.2%などとなっている。女性では15～24歳で14.3%と最も高く、次いで35～44歳8.8%、25～34歳8.6%などとなっている。

LU4の対前年同期増減の推移をみると、男性は2020年1～3月期以降、女性は2020年4～6月期以降、すべての年齢階級において前年同期と比べて上昇している。

注 未活用労働についての詳細は、総務省統計局ホームページの「未活用労働指標の解説」(<https://www.stat.go.jp/data/roudou/pdf/mikatuyok.pdf>)を参照。

(調査部 統計解析担当)

